

R. デ・ローヴァー 『為替手形発達史
—14世紀から18世紀—』 (7・完)

(*R. de Roover, L'Évolution de la Lettre de Change,
XIV^e—XVIII^e Siècles, 1953*)

楊 枝 嗣 朗 訳

序文 (フェルナン・ブローデル執筆)

謝辞 (以上, 略)

序章

第1節 本書の課題

第2節 先行研究の検討

第3節 為替手形の発展段階

第4節 為替契約と徴利をめぐるキリスト教の教義

第1章 14世紀の為替手形の起源

第1節 ジェノアその他における銀行と為替の始まり

第2節 ジェノアの公証人の公証記録に基づく初期の為替契約

第3節 為替手形の原型である「為替を原因とする契約証書

(*“instrumentum ex causa cambii”*)」

第4節 ジェノアとシャンパーニュ大市間の為替取引：貨幣市場の生成

第5節 シエナでの為替契約：同一地域内で結ばれた期限付き為替

第6節 「為替契約公正証書」から為替手形へ

第7節 「為替契約公正証書」と為替手形の純粹に形式上の差異

(以上, 本誌第19巻1号, 1986年4月所収)

第2章 14, 15世紀の為替手形と貨幣市場の発展

第1節 為替手形；為替契約とその証明・実行手段

- 第2節 ダチニ文書に基づく為替取引の典型的な事例（1399年）
- 第3節 手形文言，為替の価格・相場，銀行所在都市の相場決定
- 第4節 為替相場と利子；スコラ学説
- 第5節 為替相場変動の他の要因；貨幣の通用価値変更と正貨現送点の役割
- 第6節 為替相場と国際収支
- 第7節 為替相場と為替投機
- 第8節 中世貨幣市場の一般的特徴

（以上，本誌第42巻2号，2009年7月所収）

第3章 16世紀貨幣市場の転換

- 第1節 貨幣市場の拡大と貿易の伸張
- 第2節 スコラ教義：その広がりと制約
- 第3節 中世的伝統の残存
- 第4節 大市は新しい為替手形を生み出したのか？ 振替と相殺による決済，エキュ・ドゥ・マルク，戻し為替付き為替（*cambio con la ricorsa*）
- 第5節 スペインの特殊事情

（以上，本誌第42巻4号，2009年11月所収）

第4章 手形裏書の生成

- 第1節 問題の状況
- 第2節 中世に於ける債権譲渡
- 第3節 ネーデルラント，特にアントワープでの裏書の先行事例
- 第4節 イタリアでの裏書の起源
- 第5節 スペインでの裏書の端緒
- 第6節 特殊な事例：イングランド
- 第7節 フランス，ドイツでの裏書の普及
- 第8節 裏書の法的・経済的影響

（以上，本誌第43巻1号，2010年5月所収）

第5章 手形割引慣行

第1節 割引の用語の歴史

第2節 割引と懲利をめぐるキリスト教会の教義

第3節 為替相場と利子

第4節 割引と銀行制度の構造

第5節 付随的な疑問：手書きの為替手形から印刷された手形の使用

（以上、本誌第43巻6号、2011年3月所収）

むすび

巻末資料一覧

【訳者後記】

（以上本号所収）

(p.143) むすび

為替手形発達史の本書の研究が提起する方法の問題は、書名から予想されるよりもはるかに一般的な結論を導く。すなわち、いかなる時代にも為替手形は信用の主要な手段であったが、その運用のあり方に生じた突然の変化を考慮することなしには、近代資本主義の発展において重要な役割を演じた銀行制度の歴史を理解することはできない。⁽¹⁾

為替手形は16世紀以前には譲渡性がなかった。イングランドでは17世紀以前には、また大陸ヨーロッパでは18世紀末以前には割引かれることはなかった。この点こそ、本書が明らかにした最も重要な事実である。アッシャ教授が明示されたように、構造と手法に於ける、前近代と近代の銀行業を区別するものは、譲渡性証券の欠如であった。商業手形が割引かれず、カトリック教会がその慣行に全面的に反対する限り、そこでは割引銀行が存在することは不可能であったことを付け加えておこう。

銀行史は、オスロで開かれた歴史学会での決議により設置された委員会によって大がかりに実施された調査の対象となった。しかし残念なことに、この調査の対象は、すでに見たように、とりわけ、預金振替銀行 (banques de circulation) である公立銀行に限られていた。⁽²⁾ その是非はともかく、委員会は中世を含めないことを決め、さらに、信用手段や貨幣市場の研究を除外し

た。⁽³⁾ 近年の研究の進展のおかげで、近代についてだけでなく、中世についても、十分とは言えないにしても、かなり情報が豊富になり、おかげで、われわれは銀行の歴史をその起源から切り離して考察することの誤りを理解できるようになった。

公立銀行を対象とした研究論文集が委員会によって出版されたが、公立銀行の営業領域がその本拠地の都市の狭い範囲をほとんど超えることがなかったために、銀行史のパースペクティヴを歪めることとなった。これに対して、為替手形取引を行っていた民間銀行は、遠隔地間貿易を支え、取引所や大市の枠組みを構成していた。その上、彼らはヨーロッパ中に現送される貴金属の流れを調整していたのである。

(p.144) 公立銀行は、口頭指図かあるいは紙に書かれた指図にしたがって、預金振替で支払っていた。ヴェネチア銀行は、中世の伝統を最後まで忠実に守った。この銀行の規則によれば、預金振替の際には債権者も債務者も銀行に出向くことが求められた。そのため、債務者は振替の口頭指図のために、また、債権者は支払い受領のため、勘定記入を行う銀行の出納係の前に姿を見せなければならなかった。⁽⁴⁾ アムステルダムでは近代の小切手に似た書式の指図書の使用が認められていた。したがって、小切手の起源は、まず口頭で与えられた振替指図に、ついで書式による指図にあった。実際、小切手は支払いの単なる委任状にすぎない。それを銀行家宛に振り出された一覽払為替手形のように考えている人がいるが、それは誤りである。⁽⁵⁾ その考えは訴訟の必要から後から思いついたフィクションにすぎず、何ら歴史的事実に一致していない。なぜなら、為替手形と小切手の起源は、全く異なっていたからである。

もともと、為替手形は単なる委任状ではなかった。それは為替契約を確認し遂行する手段であって、すでに12世紀には使われていた「為替を原因とする契約証書 (instrumentum ex causa cambii)」から生まれたものである。立ち戻らなければならないのは、つねにこの契約である。それはある場所でのある金額の貨幣の支払いと他の場所での一定に期間後の返済を予定していた。定義により、為替手形は振替取引と信用取引を伴う。どちらか一方を欠いても意味をなさない。この点こそわれわれが主張してきた事柄であり、大切な点である。

恐らく若干の人は、この主張のため、われわれを非難するであろう。すなわち、為替手形は割引かれておらず、他地宛の為替相場によって決められた価格で取引されていたが、彼らによれば、それは形式の問題に過ぎないという。なぜなら、あれこれの事例に見られるように、そこにはともに信用取引が存在していたからである。われわれも、その点についてはなんら異存はない。しかし、意見の一致はそこまでである。為替手形の割引と売買の間には、大きな相違があった。

何度も繰り返して述べることになるが、思い起こしてほしいことは、手形割引は信用取引であるが、他地で支払われる手形の取引である以上、そこには為替取引が入り込まざるを得ないということである。手形割引においては利子が公然と請求されるが、為替においては利子は為替相場の中に隠されている。そうでなければ、神学者やモラリストの議論は何らの意味も持たなくなるであろう。手形割引は貸し手に確定した収益をもたらす。すなわち、それは利付貸付である。ところが、ある相場で為替手形を買った銀行家は、前もって彼の収益を知ることにはできないのである。それはすべて戻し為替で資金を回収する際の為替相場にかかっている。したがって、彼は、良くも悪くもなりうる投機に関わっていたのである。とは言え、取引所で建てられる相場には利子が含まれているという事実によって、確かに貸し手に有利ではあるが、彼の収益は依然、不確実性に晒されている。⁽⁶⁾ 神学者によれば、隔地間為替取引が合法と見なされるのは、まさにこのリスクにあった。

(p.145) 理論から現実に移すならば、割引業務に活動を限っている銀行家はエージェント（コルレス先）をもつ必要はないが、他地で現金化しなければならない手形を買う銀行家はエージェントなしではやっていけない。15世紀のウツァーノ（Uzzano）から18世紀のジロード（Giraudea）までのあらゆる文献は、隔地間取引を行う銀行家には裁定取引の優れた能力がなければならないし、コルレス先と相互の信頼関係を維持しなければならないと説いている。まさにこのことにこそ銀行の秘訣がある。

為替手形の割引が非常に簡単であるにもかかわらず、カトリック教会の懲利禁止を回避するという目的だけのために、銀行家が複雑なメカニズムを利用するといったようなことは考えられないと、反対を唱える向きもある。

しかしながら、帳簿からも明らかなように、マーチャント・バンカーらは割引を行わず、合法とみなされていた為替取引を装って貸付を隠蔽していたという事実のまえには、その点は否定のしようがないのである。実際、カトリックの教義は、商取引の実務に確実に影響していた。教義の影響は、ナポレオン商法典にすら、おぼろげながらであるが、痕跡を認めうるのである。⁽⁷⁾ 宗教は、常に最も重要な社会的ファクターであって、制度形成に影響を与え、個々人の行動をも支配していた。

資本主義の発展における宗教問題の影響について考えてみよう。この問題については大いに議論されており、われわれはマックス・ウェーバーや R. H. トーニー、H. S. ロバートソンの理論を巡っての論争に、これ以上入り込まない。われわれは本研究から引き出された新しい議論を提示するに留める。まず、問題が誤って取り扱われてきたことに注意しよう。なぜなら、「博士衆 (docteurs)」の経済的教義や資本主義市場に対する彼らの影響が大方、無視されてきたからである。実際、「博士衆」が懲利あるいは公正価格ということで理解していたことを、先ず第1に、はっきりさせることが肝要である。したがって、M. トーニーは、トーマス・ウィルソンに倣って、為替に関して公正価格とは平価であると考えていたが、彼は、ウィルソンが典型的ではなく、大陸のマーチャント・バンカーに対する当時のイングランド人があらゆる偏見を共有していたことを見ていない。そうではなく、大部分の「博士衆」にとっては、公正な価格とは平価ではなく、自由な競争の力で詐欺も欺瞞もなく決定された市場相場のことであった。⁽⁸⁾ このように、問題はまるで違って (p.146) いる。さらにトーニーは、16世紀に為替手形が、今日と同じように割り引かれていたと、誤って考えていたのである。

実際、スコラの教義は銀行業の発展をけっして妨げることはなかったが、ただ、利付き貸付を非難し、隔地間の真正手形を合法化することで、発展の性格を修正したのである。教義は、君臨する宗教の戒律を犯すことなく、業務を遂行する手段を銀行家に提供したのである。企業家の態度には偽善も軽蔑も含んではいない。銀行の元帳の冒頭に見られる恭しい祈りの言葉は、銀行家たちが大部分の住民と同様にキリスト教の信者であったことをよく示している。スコラの教義が彼らに銀行業展開の手段を提供したので、銀行家ら

は彼らの業務をどうにかこうにかモラルの要求と調和させることに努めた。貨幣取引を行う者は豊富な想像力を駆使し、「為替と戻し為替」（cambio con la ricorsa）やその変形取引などのような神学者やモラリストを困らせる新しい誤魔化しをたびたび発見しており、一旦、その取引が非難されるやいなや、再び別な形態の取引を創り出し、論争がまた急に展開されるといったことが生じたというのは事実ある。さらにその上、決疑論者さえも、彼らの著書で繰り広げられる退屈きまわりない屁理屈の原因となる諸問題について意見の一致を見ることは滅多になかった。⁽⁹⁾

プロテスタンティズムがカトリシズムよりも先に、時代精神を容認するように導かれたことは確かである。商業手形の割引が他のいかなる国よりも早く発展したのが、またプロテスタントの国イングランドであった。しかしながら、この容認の効力やスコラの教義の厳格さを過大視してはならない。さらに、また、イングランドは特殊な事例であった。すなわち、為替は、イングランドでは中世にまでさかのぼる伝統によって、政府部内でも同様に公衆の間でも疑惑の目で見られていた。割引は、ロンドンよりはるかにリベラルなアムステルダムでは発展していない。なぜなのか。恐らく、アムステルダムが大陸の他の諸都市と結びついており、その慣行に従わねばならなかったのであろう。それに対して、ロンドンは、17世紀初めの頃ははまだ二流の都市であった。

以上、幾つかの学問の助けを借り、未刊の多数の資料を使いながら、われわれは、為替手形が割り引かれることなく、変動する相場で売買されていたという本質的な結論に到達したのである。法学者や神学者、さらにはエコノミストらの様々な観点は上記の事実に符合していた。その上、われわれは、検討されるに値すると信じていたジンテーゼを実現するため、専門家の狭隘な精神をすべて捨て、彼らの議論を再検討したのであった。われわれが成功したかどうかは本書の読者が決めることである。

(1) *Holdsworth, History of English Law*, t. VIII, p.130 : 「かくて、為替手形と銀行業の起源は、ほとんど分かちがたく結びついている。事実、われわれが銀行と銀行業の生成と発展の説明に求めなければならないのは、これら為替手形を編み出した商業の要求で

ある。」

- (2) しかし、この調査は、公立銀行だけではなく、発券銀行であったイングランド銀行やスエーデン銀行をも対象とした。
- (3) 委員会によって発行された以下の書物のアンリ・ハウザー（Henri Hauser）の序文を見よ。*History of the Principal Public Banks*, éd. par J. G. van Dillen.
- (4) *Casaregi, Il cambista istruito*, p.384 et 387 ; バンコ・デル・ジロに関する諸規則。
- (5) *Holdsworth, Hist. of English Law*, t. VIII, p.190.
- (6) 拙著 *Thomas Gresham*, p.313 の補遺に引用した一連のテキストを参照されたい。以下をも参照のこと。*Malynes, A Treatise of the Canker of England's Common Wealth*, p.120; *Pardessus, Traité du contrat et des lettres de change*, p.19; *Savary, Le Parfait négociant*, 1^{re} partie, chap. 18 (éd. 1675), p.123; Jousse, “Commentaire sur l’Ordonnance du Commerce”, *Questions sur le droit*, éd. Bécane, p.123 ; 「真正手形と呼ばれている 2 種類目の手形は、隔地間の為替手形を指す。それはある都市で貨幣を与え、他の都市で手形と交換に与えた金額の返済を受ける。手形が支払われなければならない都市では、貨幣は多かれ少なかれ不足しているが、その程度に応じて、あるときは多く、また少なく、確実な収益を入手できる。この取引を行う人々が、一般にマーチャント・バンカー（banquiers et négociants）である。」
- (7) 特に第110条は、為替手形は隔地宛に振り出されることを要件としている（場所の相違）。第112条は、名前や場所の「でっち上げ」を禁止している（虚偽為替の禁止）。第179条は、戻し為替は、市場の相場によって作成されねばならないと決められている（公正な価格の理論）。
- (8) *Romoaldo Coli, O. P., Trattato de' cambi*, Lucques 1621, p.11 et suiv. カトリック教会を代表するコリーによれば、為替契約の合法性は、以下の三つの条件にかかっていた。すなわち、(1)為替は真正で、虚偽でないこと、(2)公正な価格、すなわち市場相場で契約されること（il comune corso della piazza）、(3)この価格は詐欺やベテンを伴わず決定され、相場を操作するためになされた投機売買や策略を排除したものであること。
- (9) ドミニック教団の僧侶である R. コリーは著書 *Trattato de' cambi* の序文のなかで、為替についての著作を持つ多数の神学者の議論があまりに不明確で、冗舌なので、読者は理解できる前に疲れ切ってしまうと書いて、からかっている。

巻末資料一覧 様々な都市と時代の為替手形

p.149 資料 1

約束手形形式で作成された正式なものでない為替手形。本手形により、ハンザ商人 Gerlache de Berckrode は、アントワープの大市で £45. 9. 0. de gros を返済することを約束している。同金額は、メディチ家ロンドン支店の支配人 Gierozzo de' Pigli から受領したものである。

Ich, Gerlach van Berckenroyde, bekennen dat Ich up wessel ontfanghen hayn van Jerotz de Pillei, Florentijn, 45 lb. 9 s. Flemschen gheltz wylch ich einen betzallen sal in den Antwerp marct nestkomende zo Symonne Norre, Florentyn, zo bekender warheyt hayn Ich, Gerlach vurs., myn sygenet up dese bylle gedrucket, anno 1447, den 24 dach in Merthe.

(裏面)

In de Gans to Antwerp an den Kormart.

Prymy

(訳)

私 Gerlach van Berckenroyde は、フィレンチェの人 Jerotz de Pillei から手形でもってフランドル貨 £45. 9s. 0. de gros を受領したことを認め、次のアントワープ大市で同金額をフィレンチェの人 Symonne Norre (ブルージュのメディチ家代理人) に返済することを約束する。手形は私 Gerlach 本人が署名し、1447年3月24日に作成したものである。

(裏面)

アントワープ穀物市場傍、旅籠鷺鳥亭

第1手形

(出所) フィレンチェ国立文書館(以降、ASF と略記)、Mediceco avanti il Principato, 羊皮紙, 1447年7月10日に拒絶証書の作成。

資料 2

ヴェネチアからバルセロナへの戻し為替に関わる為替手形、額面 1001 1/2 ducats d'or。不渡りのため支払拒絶証書が作成された。拒絶証書において Filippo Pierozzi の代理人である Jacopo Pandolfini は、主人が町に居らず、支払を行える者が誰もいないと記している。

+ Al nome di Dio a di 4 di marzo 1461

p.150

Paghate per questa seconda di cambio, se per la prima paghati non sono, a di 65 proximi a Filippo della Chavalleria ducati Milleuno e mezzo a s. 19 d. 8 per ducato, cioè ducati M 1^o 1/2 a s. 19 d. 8 per ducato, son per tanti conti con noi sopra di detto Filippo della Chavalleria e sopra uno protesto di ducati M fatto per lui a lettera di Filippo Pierozzi. Che Idio vi ghuardi.

*Pierffrancesco de' Medici e Compagni
in Vinegia*

(裏面)

*Filippo Pierozzi in Barzalona.
Seconda*

(訳)

神の御名において、1461年3月4日（フィレンチェ方式で）

第1手形ではなく、第2の為替手形で、65日後に、Filippo della Chavalleria に 1000 1/2 ducati をお支払いください。相場は 1 ducato = 19s. 8d. です。すなわち 1 ducato 当り 19s. 8d. で 1000 1/2 ducati は、わが口座にある上記の Filippo della Chavalleria のもので、Filippo Pierzzi の手形の 1000 ducati の拒絶証書に関わるものです。神のご加護を賜られますように。

Pierffrancesco：メディチ商会
ヴェネチアにて。

（裏面）

Filippo Pierozzi 様：バルセロナ。

第2手形

（出所）ASF, ibid, 19 juin 1462

資料3

「あなた自身に支払われたし」という文言を含み、メディチ銀行のミラノ支店からジュネーヴ支店宛に振り出された為替手形。これは確実に虚偽為替である。実際の債務者である Agnolo Simonetta がジュネーヴに見つからないという口実のもとに、手形の支払は拒絶されている。すなわち、メディチ銀行は、彼がミラノ公国の顧問であり、レマン湖の周辺で彼を捜す必要もないことを十分に承知していた。

+ Al nome di Dio a dì 25 di febraio 1462

Paghate per questa prima di chanbio sulla prossima fiera di Pasqua a voi medesimi marchi venticinque oncie due danari due d'oro, cioè M^a 25 on. 2 d. 2 d'oro, per la valuta conti con noi, e ponete per Messer Angnolo Simonetta, conto da parte. Idio vi ghuardi, per

*Piero e Giovanni de' Medici e Compagni
in Milano*

Paghate come è detto di sopra（異なる筆跡）

（裏面）

Francesco Sassetti e Compagni in Gineva.

Prima

（訳）

神の御名において。1462年2月25日

この第1為替手形で次回の復活祭の大市に於いて、あなた自身に25マル

ク 2 オンシ 2 ダナリ d'or をお支払いください。すなわち、当方勘定に払い込まれた 25 M^a 2 on. 2 d. d'or で、同額を Messer Angnolo Simonetta の口座にお振り込みください。神のご加護を

Medici 商会のピエロ & ジョバンニ
ミラノにて

上述のお方に支払われたし（異なる筆跡）

（裏面）

フランチェスコ・サセッティ 商会様、ジュネーヴ
第1手形

（出所）ASF, ibid., 14 mai 1463

資料 4

自ら受領した金額に対して、ヴァレンシアの Nicolo Mannelli と Giovanni Canigiani によって振り出された為替手形で、ブルージュでジョバンニ・サルビアッティ & ピエロ・ダ・ラバッタによってメディチ商会のピエーレに支払われる。

p.151

+ Al nome di Dio a dì 26 d'aprille 1465

Paghate per questa prima di chanbio a di 75 fatta a Piero de' Medici e Co. ▽ millecinquecentosettantaquattro, cioe ▽ 1574 Filippi, per la valuta conto a noi e ponete per voi a parte. Cristo vi ghuardi, per
Nicholo Manelli e Giovanni Chanigiani e Co.
in Valenza

（裏面）

Giovanni Salviati e Piero da Rabatta e Compagni
in Bruggia
Prima

（訳）

神の御名に於いて 1465年 4 月26日

この第一為替手形で75日後にメディチ商会ピエロに1574▽（フランドル貨）を支払ってください。すなわち、対価はフィリッピから当方勘定に受領しております。同金額を先方勘定に記入してください。あなたに神のご加護がありますように。

ニコロ・マネリ&ジョバンニ・カニジャーニ商会
バレンシアにて。

（裏面）

ジョバンニ・サルヴァーティ&ピエロ・ダ・ラバッタ商会様
ブルージュ
第1手形

（出所）ASF, Archivio Mannelli, Pergamene n°481, 10 juillet 1465

資料 5

手形金額受取人であるニコラ・ボンチャーニによってアントニオ・サルヴェッティ商会に裏書された為替手形。

+ IHS Maria addì 6 d'aosto 1519

Paghate a uxo per questa prima di cambio a Nichola Bonciani duchati cinquanta d'oro larghi per la valuta qui da Bartolomeo Ginori e Agnolo Strozzi e Co., e ponete per la d'avixo. Dio vi guardi.

*Giovamfrancesco Strozzi
in Napoli*

*+ pagate chome si dicie di sopra
Acepttata*（別の筆跡で）

(裏面)

(名宛先)

Domino Federigho Strozzi in Firenze

Prima

(裏書)

Pagateli per me Niccola a Antonio Salvetti e Co., lanaiuoli

(訳)

救い主イエス様、マリア様。1519年8月6日付け。

この第一手形でニコラ・ボンチャーニに1ユーザンスで大金貨50デゥカートをお支払いください。同金額はバロトロメオ・ギノーリ&アニョーロ・スツロッティ&CO.,から受領しております。指示にしたがって勘定記入をお願いします。神のご加護を。

ジョバンフランチェスコ・スツロッティ

ナーポリにて

上に述べたようにお支払いください。

引受ました。(別の筆跡)

(裏面)

(名宛人)

フェデリーゴ・スツロッティ様、フィレンチェ。

第1手形

(裏書)

私ニコラの代わりに毛織物商アントニオ・サルベッティ&Co.にお支払いください。

(出所) ASF, Carte Stroziane, 5° serie, filza 1088, n°5.

資料6

為替手形はリヨンからセヴィリア宛に振り出され、裏面には受取人は引受

人（手形金額支払人）に銀行の口座記入での受領を認める記述がみとめられる。

p.152 + *Addi 10 di settenbre 1537*

▽ 100 a maravedi 378 per ducato

Paghate a uso per questa prima di cambio a Francescho Botti scudi cento, a maravedi trecentoseptantotto per ▽, la valuta qui da Francescho et Bartholomeo del Bene e Comp., et ponete a mio conto. Dio vi guardi.

*Philippo di Federigho Strozzi
in Lione*

（裏面）

（名宛人）

Domino Francescco Lapi in Sabilia

Prima

（引受）

Aceptata per Francesco Lapi e Compiani

（覚え書き） 37 800

18. 18.

1890

189

18. 18. — 100

（裏書の形での受領書）

Son contento nel Banco di Cristofano e di Martines

Francesco Botti e Comp.

（訳）

1537年 9 月10日付け

為替相場 1 ducato = 378 マラヴェディで、100 scudi

この第1の為替手形でフランチェスコ・ボッティに100 scudiを1ユーザンスでお支払いしてください。為替相場は1 ducato = 378 maravediで

す。同金額はフランチェスコ&バルトロメオ・デル・ペーネ Co.より受領しております。当方勘定にご記帳ください。神のご加護を。

フィリッポ・ディ・フェデリーゴ・スツロッティ
リオンにて。

(裏面)

(名宛人)

フランチェスコ・ラピ様 セヴィーリャ。

第1手形

(引受)

フランチェスコ・ラピ&Co.によって引き受けた。

(覚え書き) 37 800

18. 18.

1890

189

18. 18. - 100

(裏書きの形での受領書)

バンコ・ディ・クリストファーノ・エ・ディ・マルティネスにて受領
フランチェスコ・ボッティ& Co.

(出所) ASF, Cart. Strozz., 5^a serie, filza 1088, n° 3.

資料7

リボルノ在住のフランドル人宛に銀行振替 (voltura di banco) によって支払われた為替手形。彼は大型帆船 Le Roi David 号の代理人である。手形は券面下部に「裏書き」されており、かつ指図人払いの文言 (a chi vi ordinera in pie di questa) を含んでいる。

+ A di 18 giugno 1601

Ducati 932. 18. 10 di moneta di £ 7 per ducato

Magnifici Honorandi piacciavi pagare a suo piacere in voltura di banco, a chi vi ordinerà in pie di questa Messer Matteo Bonade, fiammingho stante a Livorno, ducati novecentotrentadua s. xviii d. x di moneta di £ sette per ducato, al quale si fanno pagare come procuratore di Martino Jonge, alamanno, capitano della nave il Re Davit, e a lui per nolo di cuoia e orciglia che ha portato di Spagna, e datemene debito. Dio vi guardi.

Giuliano Lippi ss. in Pisa

p.153 （異なる筆跡で）

E per me Matteo Bonnade sudeto pagerete a' Magnifici Francesco Franceschi et Guliano Saragli a quale segue per il Magnifico Signor Stefano Nieri di Luca.

（裏面）

A' Magnifici Matte e Lorenzo Galli in Firenze

（Orciglia は染色材料である。）

（訳）

1601年6月18日付け

1 ducato = £7 の為替相場で、額面 932 ducati 18s. 10d. di moneta

偉大なご主人様。願わくば、この手形でリボルノ在住のフラマン人マッテオ・ボナーデが貴方様に指示される者に銀行振替の方法で、932 ducati 18s. 10d. di moneta（相場は1 ducato = £7）をお支払いください。同氏は、大型帆船 *il Re Davit* の船長でドイツ人の Martino Jonge の代理人として、スペインから運んできた皮革と染料の輸送料金の受領を託されています。借り方に記入されたし。神のご加護を。

ピサにて、ジュリアーノ・リッピ

（異なる筆跡で）

私、マッテオ・ボナーデの代わりに、大フランチェスコ・フランチェスキ&ジュリアーノ・サライーにお支払いください。ご両人はルカの大ステ

ファーノ・ニエーリに仕えるものです。

(裏面)

フィレンチェの大マッテ&ロレンツォ・ガッリ様

(出所) ASF, Fondo Arcispedale di Santa Maria Nuova, Archivio
Galli-Tassi, n°1341: Lettere di cambio della ragione Galli dal
1585 al 1609.

資料 8

有名なイングランドの重商主義者であるトーマス・マンによって署名されている為替手形。裏面ではなく、テキストの下欄に3度、裏書 (*gurate* すなわち *endorsements*) されている。

A dì 30 di Giugno 1601 in Pisa

Ducati 80 di moneta

*Magnifici, vi peacherà pagare a che in piè di questo vi ordinerà il
Magnifico Giugliano Castagnolo duchatti ottanta di lire sette per duchato
conti con il Magnifico Signor Alessandro Merello, et ponete a mio conto
come vi se avisa. Idio vi guardi.*

Tomaso Mun

(振替の指図, すなわち *girate*)

- (1) *E per me Giuliano Castagnolo vi piacerà paghare a che vi ordinerà
in piè di questa il signor Giovanni Batista Preve.*
- (2) *E per me Giovanni Battista Preve pagate a chi vi ordinerà questi
Magnifici Rede de Domenico Ceuli, con loro conti (?).*
- (3) *Per noi Herede di Domenicho Ceuli pagate la presente lettera costí
a Magnifici Averardo e Antonio Salviati & Co. del Bancho* (以降は判
読不能)

（裏面）

A magnifici Matteo e Lorenzo Galli in Firenze

（訳）

1601年6月30日付け、ピサにて。

金額 80 Ducati di moneta

（大マッテオ&ロレンツォ・ガリー様）、この手形で大ジュリアーノ・カスタンヨーロ様が貴方様に指図される者に80デゥカートをお支払いください。同金額は大アレサンドロ・メレッコ様から1デゥカート＝7リラの相場で受領済みです。指示により私の口座に借方記入お願いします。神のご加護を。

トーマス・マン

- （1）私ジュリアーノ・カスタンヨーロの代わりに、ジョバンニ・パティスタ・プレーヴェ氏が貴方様の指図される者にお支払いください。
- （2）私ジュリアーノ・パティスタ・プレーヴの代わりに、レーデ・ディ・ドメニコ・セリュが貴方様に指図される者にお支払いください。彼らの勘定に（?）。
- （3）われわれヘレーデ・ディ・ドメニコの代わりに、手形の呈示に対してアヴェラルド&アントニオ・サルビアーティ&Co.に銀行振替でお支払いください（残りは判読不能）。

（裏面）

フィレンチェの大マッテオ&ロレンツォ・ガッリ様

（出所）ASF, Archivo Galli-Tassi, n° 1341.

資料 9

Bernardo Davanzati のために、ピサの Lorenzo Galli 商会によって、フィレンチェの同商会宛に振り出された為替手形。

p.154

+ *A dí 14 Dicemgre 1601 in Pisa*

▽ 639. 11. 8 di Pisa a ▽ 108 d'or per cento

A dí 3 ottobre proximo, pagate per questa prima di cambio al Magnifico Bernardo Davanzati ▽ secentotrentanove s. xi d. viii di Pisa a ▽ centotto d'or per cento contimi e ponete come per lo spaccio.

Lorenzo Galli

Accettata (異なる筆跡で)

(裏面)

(名宛先)

A Matteo e Lorenzo Galli in Firenze

Prima

(備考)

690. 15. 1

(訳)

1601年12月14日、ピサにて

ピサ貨 639 écus 11 sous 8 deniers, 相場は 108 écu d'oro 対 100 次の10月3日にこの第1手形でBernardo Davanzati様に、108 écu d'oro 対 100 の為替相場でピサ貨 639 écus 11 sous 8 deniers の同額をお支払いください。同額を当方勘定に記入してください。

Lorenzo Galli

引受けました (異なる筆跡)

(裏面)

(名宛先)

A Matteo e Lorenzo Galli in Firenze

第1手形

(備考)

690. 15. 1

（出所）ASF, Archivo Galli-Tassi, n°1341.

上記の手形は自筆のものでない。署名は、手形文言や名宛先の筆跡と異なる。裏面に記入されている 690 écus 15 sous 1 denier の金額は、108 対 100 の為替相場でピサの 639 écus 11 sous 8 deniers 等しい。

資料10

ブルゴスの羊毛商人Garcer del Pesoによって、ブルーージュのJuna Lopez Galloのために振り出された為替手形。後に、後者によって、Gilles Deegbroodに裏書譲渡されている。手形はアントワープにあるスペイン系の銀行 Balthazar Andrea によって支払われている。

+ En Burgos a 12 de henero 1611

495 ducados 12 s. 9 d. a 118

A uso pagara V. M. por esta primera de cambio al señor Joan Lopez Gallo, Baron de Mala, quatrocientos y noventa y cinco ducados doze sueldos y nueve dineros a ciento y diez y ocho gruessos por ducado. Por la balor contadome y pongalos V. M. a mi quenta. Christo con todos.

Garcer del Peso

Acetada（異なる筆跡）

（裏面）

（名宛先）

+ A Baltasar Andrea

Amveres

Prima

p.155

（裏書）

+ Yo Juan Lopez Gallo, Baron de Mala, soy contento se pague al Senor Gile Deegbrodt lo contenido desta lettra de cambio con lo qual

quedare satisfecho y pagado y en fe desto firmo mi nombre.

Fecho en Brujas a 15 de Março 1611

Jehan Lopez Gallo

(受領)

Soy contento y pagado del contenido en esta letra. En Amveres 21 de Marzo 1611

G. Deegbroot

(訳)

ブルゴスにて、1611年1月12日付け

495 ducados 12 s. 9 d. 為替相場 1 ducados = 118 gruessos

この第1手形で Joan Lopez Gallo, Baron de Mala 様に、495 ducados 12 s. 9 d. を1ユーザンスでお支払いいただきますようお願いいたします。為替相場は1 ducado 当たり 118 gruessos です。同金額を当方勘定にご記入ください。神のご加護を。

Garcer del Peso

引受（異なる筆跡で）

(裏面)

(名宛人)

A Baltasar Andrea

アントワープ

第1手形

(裏書)

私 Juan Lopez Gallo, Baron de Mala は、為替手形の額面金額が Gile Deegbrodt に支払われることに同意する (con lo qual quedare satisfecho y pagado y en fe firmo mi nombge.)

ブルージュ Fecho にて、1611年3月15日

Jeham Lopez Gallo

（受領）；

この手形で額面金額を受領いたしました。アントワープにて、1611年
3月21日

G. Deegbroot

（出所） *Archives communales d'Anvers*, Insolvente Boedelskamer
（Chambre des Faillites）, n°790: Balthazar Andrea.

資料11

Sir Williana Selby を受取人として、ロンドンの Giovanni Calandrini & Filippo Burlamacchi によって、アントワープの Balthazar Andrea 宛に振り出された信用状（Lettre de credit）。裏書の中で受取人の Selby は、為替手形が別のイングランド人 Robert Rug に支払われることを求めている。

A dì 18 Marzo 1611 in Londra

£ 100 a s. 33 : 4 d.

A tre dì vista, non sendo per la prima, pagate per questa seconda di cambio al signor Guiglielmo Selbij, cavaliere, Lire cento sterlini a soldi trentatre danari quattro di grossi per Lira Sterlini, la valuta qua da lui medesimo e ponete a conto nostro, A Dio.

Giov. Calandrini e Filippo Burlamachi

（裏面）

（名宛て先）：

Al magnifico Baltasar Andrea in Anversa

Segonda

（裏書）

The 20th April 1611

Received by me underwriten by Mr. Robert Rug who I assigned to receive it the some of one hundred pound sterling of S^r Baltezar

*Andreas and is in full payment of this bill of exchange, I say,
received . . . 100 lb.*

William Selby

(訳)

1611年3月18日付, ロンドンにて

額面金額£100, 相場£1 当たり 33s. 4 d. グロッソ
一覽後3日で, 第1手形ではなく, この第2 為替手形で Guilielmo Selbij
様に為替相場£1 当たり 33 danari quattro di grossi で£100 st. をお支払
ください。お支払金額を当方勘定に記入してください。神のご加護を。

Giov. Calandrini e Filippo Burlamachi

(裏面)

(名宛て先):

Al magnifico Baltasar Andrea 様 アントワープ。

第2 手形

(裏書)

1611年4月20日

私は S^r Baltezar Andreas から支払われる £100 stl. 相当額の受領
を Robert Rug 氏に譲渡します。私の受領する £100 は, この為替手形
の満額の支払いである。このことを記名承諾します。

William Selby

(出所) *Archives communales d'Anvers*, Insolvente Boedelskamer, n° 790.

p.156 資料12

いわゆるブザンソンの大市払いで, ヴェネチア居住のフラマン人によって,
同大市に通う銀行家宛に, 振り出された為替手形である。この為替手形は,
署名が為替文言と筆跡が異なっており, 自筆のものではない。

Anno 1642, Addì 19 Luglio in Venetia

▽ 135. 17. 1 d'or marchi

In pagamenti prossimi fiera de Agosto, pagate per questa prima de cambio a' Signori Lorenzo e Angelo Galli Scudi centotrentacinque soldi desesette e dinari uno d'oro marchi, cambiati con Signori Coreggro e Legrette et ponette come per il Spaccio. A Dio.

Giovanni de Wale ss.

（裏面）

A' Signori Francesco Ottavio Lumaga

Marcantonio Stampa

in

Bisanzone o dove si fara la fiera

Prima

（訳）

1642年7月19日付け、ヴェネチアにて

額面金額 135 Scudi 17 soldi 1 dinari 金マルク

アゴストの次回の大手の支払期間に、この第1の為替手形で Lorenzo & Angelo Galli 氏らに 135 Scudi 17 soldi 1 dinari 金マルクをお支払いください。同金額は Coreggro & Legrette 氏らより受領しており、支払額を勘定記入してください。アーメン。

Giovanni de Wale ss.

（裏面）

Francesco Ottavio Lumaga 様ならびに Marcantonio Stampa 様へ

ブザンソン大手あるいは訪れる処

第1手形

（出所）ASF, Archivio Galli-Tassi, N° 1342 : Lettere di cambio della ragione Galli dal 1652 al 1644.

資料13

指図人払い条項を含み、受取人によって、振出人でもある振宛人に裏書譲渡されている為替手形。これは大いに虚偽為替であると思われる。

A dì 24 Maggio 1687 in Firenze

▽ 229. 16. 1 marche

In pagamenti prossimi di fiera San Giovanni Battista pagate per questa prima di cambio all'ordine senza procura del Signore Amerigo Tornaquinci scudi Dugento ventinove s. sedici e d. uno di marche, valuta cambiata con il medesimo e ponete come per lo spaccio, a Dio.

ss. Alessandro e Lorenzo Antonio Galli

(裏面)

名宛先：

A' Nostri Alessandro e Lorenzo Antonio Galli

Prima

Piacenza, Fiera San Giovanni Batista

p.157

(裏書)

E per me a voi medesimi valuta cambiata con questi signori, a Dio

Amerigo Tornaquinci

(訳)

1687年5月24日付け、フィレンチェにて

額面金額 229. 16. 1 マルク

サン・ジョバンニ・バティスタ大市の次の支払期間に、この第一手形でアメリゴ・トルナクインチ氏の指図人に滞りなく 229 scudi 16 s. 1 d. マルクをお支払いください。同金額は同氏から受領しており、支払額を勘定記入してください。アーメン。

ss. アレサンドロ&ロレンツォ・アントニオ・ガッリ

（裏面）

われわれのアレサンドロ&ロレンツォ・アントニオ・ガッリ様
第1手形

ピアチェンツァ，サン・ジョバンニ・バティスタ大市

（裏書）

私の代わりに，これらの方々から受領する金額をあなたご自身にお
支払いください。アーメン。

アメリゴ・トルナクインチ

（出所）ASF, Archivio Galli-Tassi, n° 1343, Lettere di cambio della
ragione Galli dal 1645 al 1699.

資料14

振出人が記入する空白のある印刷され定式化された為替手形。誤りのない
ように，加筆すべき文言は，イタリア語で指示されている。

London the 9 *Decembre* 1715

for £ St. 50. 00. 00 at 37 sh. 04 grt Flemish per £ Str.

At two usance and *eight days* pay for this my Second of Exchange
(the first not being paid) to Mess^{rs} John Schoppens & John Edwards or
Order *Fifty* . . . Pounds Sterling at Thirty Seven Shillings & four groot
Flemish per Pound Sterling for the value of *the same* and place it to
account as by advice from

S. Clarke

To Mr. *Judocus van Diest*

Merchant

In *Antwerp*

Seconda

(裏面)

*Betaelt aen d'heer Jacques de Lanoy de Swindrecht ofte ordre de
waerde in Reeckening*

London, den 9 December 1715

John Schoppens & John Edwards

(訳)

ロンドン, 1715年12月9日

額面金額£50. 00. 00. 為替相場£1=37 sh. 04 grt. Flemish
2 ユーザンスと8日後に, この第2手形で John Schoppens & John
Edwards またはその指図人に為替相場£1 当たり 37 sh. 04 groot Flemish
で£50 st.をお支払いください(第1手形には支払わないでください)。同
金額をアドバイスに従い, 勘定に記入してください。

S. Clarke

Mr. Judocus van Diest 様

商人 アントワープ

第2手形

(裏面)

Jacques de Lanoy de Swindrecht 氏にお支払いください。(oft ordre
de waerde in Reeckening ?)

ロンドン, 1715年12月15日付け

John Schoppens & John Edwards

(出所) *Archives communales d'Anvers*, Insolvente Boedelskamer, n°
1387: Fonds de Lannoy.

【訳者後記】

本書を手に取り、通読し終えたのは、余白への書き込みを見ると、1979年7月13日である。貨幣信用制度の中世から近代への移行や、外国為替と国際通貨がいかなる関係にあるのかといった問題関心から、すぐに本書を全訳した。そして、序章と第1章の拙訳を本誌に掲載したものの、諸般の事情で、以降の掲載を放棄してしまった。すでに4半世紀以上も前のことである。いまやっと「結論」「資料」の拙訳を検討し終えた。

さて、ヨーロッパ中世為替手形の研究に先鞭をつけられ、委託販売と為替手形の結合から多角的決済システムや国際通貨論展開の方向を示されたのは、故徳永正二郎氏であった。私も氏の『為替と信用—国際決済制度の史的展開—』（新評論、1977年）に触発され、R. de Rooverの著書、論文に取り組み、イギリス近代信用制度の生成を考察してきた。その後、イングランド16、17世紀の『商人必携』や商人勘定の中にイマジナリー・マネーとリアル・マネーを見いだしたことを契機に、メタリズム貨幣論から決別するとともに、初期預金銀行や為替手形の変貌に資本主義的貨幣制度の起源を求めることができた。徳永氏やde Rooverの研究に出会ったことが、私の貨幣論研究の大きな転機となった。

懲利禁止と手形の流通性に着目したde Rooverの研究は、その後のHermann Van Der Wee⁽¹⁾やJames Stevens Rogers⁽²⁾や最近のJan De Vries & Ad Van Der Woude⁽³⁾、M. Koln⁽⁴⁾の研究からみれば、問題点も散見され、それらについては拙著⁽⁵⁾でも論じた。しかしながら、本書は依然、ヨーロッパ中世為替手形や中世貨幣市場研究の始点を占める⁽⁶⁾。近年、西洋史、日本中世史研究においても鑄貨の流通にとどまらず、信用関係への関心が高まっているようであり⁽⁷⁾、本書の邦訳もなにかしかの参考になるのではないかと考える。

拙訳には誤りや不備な点も多く見られるであろう。ご教示いただければ、幸いである。

(1) *Herman Van Der Wee, The Growth of the Antwerp Market and the European Economy*, Vol. 1, 2, 1963.

- , “Anvers et les innovations de la technique financière aux XVI^e et XVII^e siècles,” *Annales (Economies, Sociétés, Civilisations)*, XXII^e année, 1967, No. 5. 拙訳「アントワープと16・7世紀のフィナンシャル・イノベーション」(『佐賀大学経済論集』第23巻5号, 1991年1月)
- , “Monetary, Credit and Banking System”, in *Cambridge Economic History of Europe, Vol. V, edited by E. E. Rich and C. W. Wilson*, 1977.
- (2) James Stevens Rogers, “The Myth of Negotiability”, *Boston College Law Review*, Vol. 31, 1990.
- , *The Early History of the Law of Bills and Notes; A Study of the Origins of Anglo-American Commercial Law*, 1995, 川分圭子訳『イギリスにおける商事法の発展—手形が紙幣になるまで—』, 弘文堂, 2011年1月)
- (3) Jan De Vries & Ad Van Der Woude, *The First Modern Economy, Success, Failure, and Perseverance of the Dutch Economy, 1500-1815*, 1997, J. ド・フリース & A. ファン・デア・ワウデ著, 大西吉之・松浦末樹訳『最初の近代経済—オランダ経済の成功・失敗と持続力, 1500-1815年—』, 名古屋大学出版会, 2009年。
- (4) M. Kohn, “Early Deposit Banking,” February 1999.
- , “Payments and the Development of Finance in Pre-industrial Europe,” Nov. 2001. (ホームページより)
- (5) 楊枝嗣朗『イギリス信用貨幣史研究』, 九州大学出版会, 1982年, 第1章「中世・近世・近代貨幣市場論—R. de Roover の近代貨幣市場論批判」
- 『貨幣・信用・中央銀行—支払決済システムの成立—』, 同文館出版, 1988年, 第5章「信用貨幣・信用創造・信用制度」。
- 『近代初期イギリス金融革命—為替手形・多角的決済システム・商人資本—』, ミネルヴァ書房, 2004年, 第3章「イギリス近代における為替手形の性格」。
- (6) 以下の文献は, De Roover の最晩年に執筆されたもので, 彼の理論体系の骨格がわかりやすく解説されている。R. de Roover, “Le Marché Monétaire au Moyen Age et au début des temps modernes, Problèmes et Méthods,” *Revue Historique*, No. 495, 1970, 拙訳「中世・近世の貨幣市場—課題と方法—」, 『佐賀大学経済論集』第13巻1号, 1980年11月。
- (7) 名城邦夫「中世後期・近世初期西ヨーロッパにおける支払決済システムの成立—計算貨幣による市場統合—」『名古屋学院大学論集』Vol.43, No.1, 2006年7月, 同「中世後期・近世初期西ヨーロッパ, ドイツにおける支払決済システムの成立—アムステルダム市立為替銀行の意義—」, 同上誌, Vol.45, No.1, 2008年7月。桜井英治『日本中世の経済構造』(岩波書店, 1996年), 同「中世の貨幣信用」(新体系日本史 12『流通経済史』所収, 山川出版社, 2002年), 井原今朝男「中世借用状の成立と質券之法」(『史学雑誌』111の1 2002年), 同『中世の借金事情』(吉川弘文堂, 2009年)。

(2011年3月24日, 記)